

忍岡小 だより



台東区立 忍岡小学校
Shinobugaoka Elementary School

〒110-0008 東京都台東区池之端2丁目1番22号
TEL: 03-3822-4661 FAX: 03-5685-3591
HP: <http://www.taitocity.net/shinobu-es/>

校長 松田 正昭

令和7年4月7日

「忍岡小から世界へ。忍岡小から未来へ。」 令和7年度、忍岡小学校は創立150周年を迎えました

校長 松田 正昭

満開の桜とともに、輝かしい春が訪れました。本日から忍岡小学校の令和7年度が始まりました。1年生の保護者の皆様、御入学おめでとうございます。また、2年生以上の保護者の皆様、御進級おめでとうございます。子供たちの明るい笑顔、元気な挨拶、そして、大きな希望とともに、令和7年度は新しく39名の1年生を迎え、**全学年2学級、計12学級、児童数328名**でのスタートです。

さて、忍岡小学校は、今年度いよいよ創立150周年の記念すべき年を迎えました。本校は、明治8（1875）年10月2日、現在の学校の近くにある東淵寺様の境内の一部をお借りして開校しました。明治5年（1872年）8月の学制発布により日本の近代教育制度は始まりましたが、本校はその僅か3年後には、正式に小学校として開校したことになります。創立当時のことについて、創立140周年記念誌には次のような記述があります。

●学校の誕生

忍岡小学校は、明治八年十月二日に湯島池之端七軒町、東淵寺の一部をかりて開校しました。明治のはじめ、東淵寺は寺子屋を開いておりましたが、この手習い子もそのまま小学生になりました。お寺の※庫裡の畳をあげ洋式のいすと机で勉強をはじめました。

入学できる児童の年齢は六歳から十三歳までで、おもに読み方、書き方、算術を勉強しました。先生の数は分かりませんが児童は約百名でした。開校当時は東京府第四中学区第十番公立小学忍岡学校と言われました。この付近が忍岡といわれていたのでその名前をとってつけられました。

※「庫裡（くり）」とは、寺院の台所や僧侶が居住する場所のことです。

本校が開校した当時は、明治4（1871）年の郵便制度導入、明治5（1872）年の鉄道開通、富岡製糸場設立、明治7（1874）年の自由民権運動の始まりなど、日本の社会が急激に変化を遂げた時期でもありました。欧米の文化や価値観を受け入れ、日本の伝統や文化と融合させながら、新しい社会を築き始めた時代だったと考えられます。このように社会が大きく変革してきた中、地域の皆様の大きな期待と溢れんばかりの希望とともに開校を迎えたことと思います。それから150年が経過しようとしています。地域の皆様の思いや願いは脈々と受け継がれ、本校に関わる全ての方々の熱い気持ちと絶え間ない努力のおかげで、幾多の困難をも乗り越えて現在に至っています。

令和7年度は、本校にとりまして重要な1年になります。現在本校に在籍する児童や教職員、保護者の皆様、地域の皆様、同窓生の皆様など、忍岡小学校を愛する全ての方々とともに、「忍岡小から世界へ。忍岡小から未来へ。」の言葉に願いを込めて忍岡小学校創立150周年をお祝いしてまいりたいと思います。

今年度も子供たちの笑顔のために、また、健やかな成長のために、教職員一同力を合わせ、工夫と改善を重ねながら教育活動を推進してまいります。子供たちの明るい未来と忍岡小学校のますますの発展のために、本校の教育活動に御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。